

## 第23回 宇宙産業・科学技術基盤部会 議事要旨

1. 日時：平成28年9月29日（木） 10：00－12：00

2. 場所：内閣府 宇宙開発戦略推進事務局 大会議室

3. 出席者

(1) 委員

山川部会長、松井部会長代理、下村委員、中村委員、薬師寺委員、山崎委員、渡邊委員

(2) 事務局（宇宙開発戦略推進事務局）

高田事務局長、佐伯審議官、松井参事官、行松参事官、高見参事官、佐藤参事官、守山参事官

(3) 関係省庁等

総務省情報通信国際戦略局宇宙通信政策課長	新田 隆夫
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課企画官	奥野 真
文部科学省研究開発局宇宙開発利用課宇宙利用推進室長	鎌田 俊彦
経済産業省製造産業局航空機武器宇宙産業課宇宙産業室長	靄田 将範

4. 議事要旨 (○：質問・意見等 ●：回答)

(1) 宇宙産業・科学技術基盤に関する工程表の改訂について

資料1、参考資料1に基づき事務局から説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。

○宇宙基本計画工程表（平成28年度改訂）の策定に向けたパブリックコメントをどのように実施したのか。

●インターネットにより実施し、150件程度の回答があった。現在取りまとめており、今後公表を予定している。

(2) 平成29年度概算要求ヒアリング

平成28年度補正予算案及び平成29年度概算要求における宇宙開発利用関係予算について、資料2に基づき事務局から説明を行った。続けて、各省（総務省、文部科学省、経済産業省）の平成29年度概算要求について文部科学省、総務省、経済産業省の順に各省からそれぞれ資料3、4、5に基づき説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。

■文部科学省

○国際宇宙ステーション（ISS）について、総額として前年度より増加した要

求となっている。これまでの議論では効率化を図るとされていたが、何故増額要求となっているのか。

- HTV-Xの開発費が計上されているためである。運用フェーズまで含めれば総経費は縮減できる。
- 昨年のISS運用延長への参加の是非に係る議論の経緯を踏まえて、それがわかるように説明をするべき。

○平成29年度概算要求で重点化しているものは何か。

- X線天文衛星の代替機とH3ロケットの増額分が総額を増加させている主な要因である。他にも、防衛省と連携したSSAに関するレーダ強化や、AMSR後継ミッションの他の政府衛星との相乗り検討等も進めて参る。

#### ■総務省

- 次期技術試験衛星について、ミッション系と衛星バス系の開発スケジュール及びそれをシステムとしてインテグレーションする部分も含めて、打ち上げ年度が遵守できるスケジュールになっているのか。
- 総務省、文部科学省がそれぞれ担当しているミッション系、衛星バス系のスケジュールに矛盾が生じないように組んでいるが、開発が進んでくると難しい要素が出てくる可能性もある。それを調整する会議体も設けたので、これも活用しつつ開発を進めて参りたい。

○我が国のリモートセンシングをこれからどういう方向に進めていくのかという全体像がない。こうしたことを議論するための場を設定する必要がある。

#### ■経済産業省

- ハイパースペクトルセンサの商業分野に向けた開発は重要である。具体例としては、アフリカでの資源や環境汚染の検知等にも適用できる有用なものである。

### (3) 宇宙産業振興小委員会の検討状況について

事務局から、これまでの宇宙産業振興小委員会の検討状況について資料6に基づき説明を行った。説明の後、以下のような意見等があった。

○宇宙産業振興小委員会のアウトプットはシンプルかつ成功事例を実際に生み出していけるようなものにして欲しい。

○宇宙産業ビジョンは宇宙産業のどの分野をスコープにするのか。

- 既存の宇宙産業と新しい分野のどちらも抜きにすることはできない。双方のバランスのとれたものにしていく必要があると考える。

以 上